

平成 25 年度 渡島教育局指導主事訪問

音楽科学習指導案

七飯町立七飯中学校
音楽科 教諭 佐藤 圭佑

今年2月に、初任者研修を担当して下さった大井結厘子指導主事の学校訪問があり、その際授業を公開いたしました。卒業式に向けての歌唱(合唱)の授業で、式典で取り扱う楽曲の指導を中心に行い、国歌指導の在り方と、校歌や式歌との関連性を意識させながら、学校教育の儀式的行事における、音楽科の存在意義を示す授業展開を目指しました。

音楽科 学習指導案

日時 平成26年2月14日(金) 第4教時
生徒 第1学年C組 男子16名 女子15名 計31名
指導者 教諭 佐藤圭佑

I. 題材名 「声部の役割を生かして、歌詞の内容を味わいながら歌う」

II. 題材の目標

- (1) 歌詞の内容を理解し、主旋律の表れ方を理解して表現する。
- (2) 旋律のまとまりや強弱の設定を生かして、表現を工夫する。
- (3) 声部の役割を理解し、それらの働きを生かして表現を工夫する。

III. 題材設定の理由

本題材では、本校の卒業証書授与式で歌唱する、楽曲3曲を教材として取り上げる。

国歌「君が代」は、小学校学習指導要領第2章第6節「音楽」第3指導計画の作成と内容の取扱い、1(3)において

〈国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること〉と明示されており、中学校学習指導要領第2章第5節「音楽」にはその記載がないものの、第5章「特別活動」には国歌「君が代」についての取扱いが明示されている。中学校においては、国歌「君が代」をより音楽的に歌唱できるよう、その成立の歴史、明治期の日本人がどのような思いで国歌を作ったかを知る学習内容を盛り込んだ。学習内容としては、①歌詞は『古今和歌集』の読み人知らずの和歌からとられたものであること。②楽曲の雰囲気は、日本の最古のオーケストラである雅楽の音楽を模したものであること。③我が国の平和と繁栄の願いを込められた国歌であること、を学習する。また、国歌「君が代」を歌唱する際に、音楽的に留意する点である①強弱、②プレス、③間についても学習し、それらの活動を通して国歌を歌う意義や意味を考えさせていきたい。

「旅立ちの日」では、校内合唱コンクールで学習した、歌唱、合唱の基本事項を確認しながら、混声三部合唱の醍醐味をさらに深めていく。より伸びやかに声を出していくための発声法の習得と、楽曲表現を深めるために①言葉のまとまりをとらえること、②言葉のアクセント、③発音、④楽譜に書かれている強弱を意識することが大切であることを、本楽曲の学習を通して学ばせたい。その過程において、生徒の知覚・感受、表現する活動のサイクルや、自らの思いや意図を表現することを、楽譜や学習プリントに書きこんだり、それらをもとに他者と話し合い、より良い音楽表現を目指す姿勢を育てていきたいと考える。

学習指導要領との関連

中学校学習指導要領 第2章 第5節 「音楽」

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕 2 内容 A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。

イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。

ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

中学校学習指導要領 第5章 「特別活動」

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

3 入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする。

IV. 教材 国歌「君が代」(『古今和歌集』 読み人知らず / 林 古溪 作曲)

「七飯町立七飯中学校 校歌」(寺沢 熙泰 作詞 / 三浦 俊郎 作曲)

「旅立ちの日に」(小嶋 登 作詞 / 坂本 浩美 作曲 / 松井 孝夫 編曲)

本教材において指導する共通事項 【音色 リズム 速度 旋律 強弱 抑揚】

V. 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度 〈観点1〉	音楽表現の創意工夫 〈観点2〉	音楽表現の技能 〈観点3〉
歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	速度、旋律、強弱などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫したり、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫したりし、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするための必要な技能を身に付けて歌っている。

VI. 指導計画と評価計画 (6時間扱い)

時	○学習活動	評価規準	評価方法
第1時	○国歌「君が代」の成立背景と、明治期の日本人がどのような願いを込めて国歌を定めたかを知る。 ○国歌の旋律を歌う。 ○「旅立ちの日に」を楽譜を見ながら鑑賞し、楽曲全体の雰囲気をつかむ。 ○女声パート、男声パートがユニゾンである箇所を歌唱し、歌唱する際の発声法、基本姿勢を確認する。	観点〈1〉① 観点〈3〉①	観察 学習プリント 自己評価シート
第2時	○前時の学習内容を確認する。	観点〈1〉 ②③	観察 パート練習の取組 演奏
第3時	○全体で合唱し、声部のバランスやつられてしまう箇所を確認し、次時への学習課題をとらえる。	観点〈3〉 ②③	自己評価シート

第4時	○前時までの学習内容を確認する。 ○各パートの旋律の動きと言葉のリズム、アクセント、抑揚とのかかわりを考えながら、パート練習に取り組む。	観点<1>④ 観点<2>①	観察 演奏 自己評価シート
第5時 本時	○前時までの学習内容を確認する。 ○旋律の動きや強弱、言葉の扱いに留意しながら歌う。 ○言葉のまとまり、発音や言葉のアクセントを工夫しながら、楽曲表現を深める。 ○全体で合唱し、本時のまとめと次時への学習課題を確認する。	観点<1>⑤ 観点<2>②	観察 生徒の発言内容 パート練習の取組 演奏 自己評価シート
第6時	○前時まで学習内容を確認する。 ○旋律の動きと強弱との結びつきをとらえる。 ○言葉のまとまりや、発音、言葉のアクセントを生かして歌唱すると、楽曲の表現がより深まることを知る。 ○まとめの合唱	観点<1>⑥ 観点<2>③	観察 学習プリント 演奏 自己評価シート

Ⅶ. 本時案

(1) 本時の目標

- ・声部の役割や全体の響きに関心をもち、合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。〈観点1〉⑤
- ・言葉のまとまりを意識し、発音や言葉のアクセントを工夫しながら、楽曲の表現を深める。〈観点2〉②

(2) 本時の展開

	指導内容	○学習活動 ●評価規準	・指導上の留意点
導入	前時の振り返り 歌唱活動の基礎事項の確認	○校歌を、姿勢と発声を意識しながら歌う。 ○国歌を、プレスと強弱を意識して歌う。	・歌唱の活動に取り組む際の基本である、頭声発声や姿勢、プレスコントロールを意識し、無理のない発声で伸びやかな声を出すことを意識させる。 ・国歌の成立や、国歌を歌う意義と意味を理解させながら、活動に取り組ませる。
展開	本時の学習課題の提示 課題解決に向けての手立て 歌唱表現の創意工夫	○これまでの学習活動を踏まえ、全体で合唱をする。 ●音楽への関心・意欲・態度-⑤ ○全体で合唱した際に課題となった箇所をパートごとに確認し、それらの課題と言葉のまとまりと発音、アクセントを意識しながら、パート練習に取り組む。 ●音楽表現の創意工夫-②	・合唱した後、パートごとに課題を確認することを理解させ、気づいたこと楽譜に書きこむよう指導する。 ・パートごとに話し合いをする際、話し合いがスムーズに行えるよう、机間支援と助言を行う。 ・自ら表現したいという思いや表現意図をもてるよう助言を行う。

ま と め	成果の共有 自己評価	○全体で合唱をし、学びを共有する。 ○本時の自己評価をする。	・パート練習後の合唱を録音し、自分達の演奏への興味・関心を高め、本時に学んだこと、課題を確認させ、次時への学びの喚起を行う。
-------------	-------------------	---------------------------------------	--